

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2005年6月30日 (30.06.2005)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2005/059404 A1

(51) 国際特許分類⁷:

F16H 7/08

(21) 国際出願番号:

PCT/JP2004/019026

(22) 国際出願日: 2004年12月20日 (20.12.2004)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2003-420844
2003年12月18日 (18.12.2003) JP

(71) 出願人(米国を除く全ての指定国について): NTN株式会社 (NTN CORPORATION) [JP/JP]; 〒5500003 大阪府大阪市西区京町堀1丁目3番17号 Osaka (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ): 佐藤 誠二

(SATO, Seiji) [JP/JP]; 〒4388510 静岡県磐田市東貝塚1578番地 NTN株式会社内 Shizuoka (JP). 井筒 智善 (IZUTSU, Tomoyoshi) [JP/JP]; 〒4388510 静岡県磐田市東貝塚1578番地 NTN株式会社内 Shizuoka (JP). 北野 聰 (KITANO, Satoshi) [JP/JP]; 〒4388510 静岡県磐田市東貝塚1578番地 NTN株式会社内 Shizuoka (JP). 早川 久 (HAYAKAWA, Hisashi) [JP/JP]; 〒4388510 静岡県磐田市東貝塚1578番地 NTN株式会社内 Shizuoka (JP).

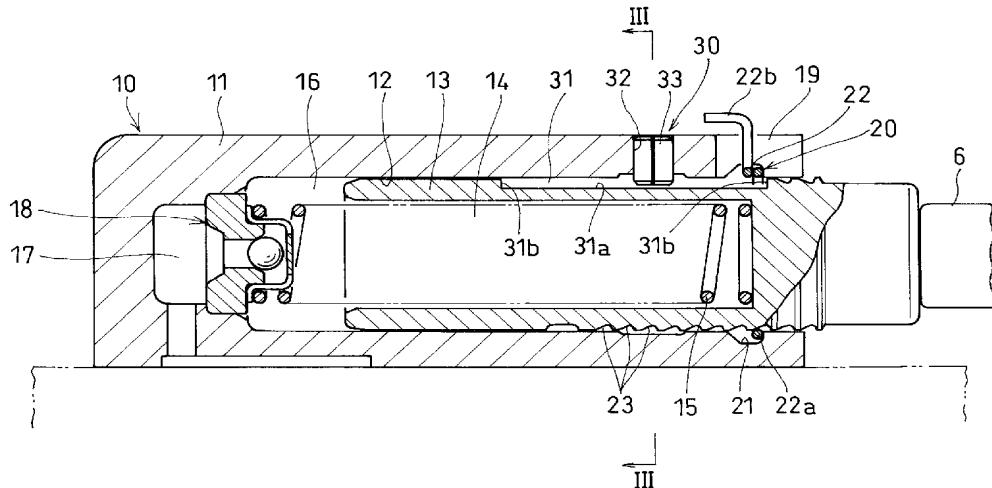
(74) 代理人: 鎌田 文二, 外 (KAMADA, Bunji et al.); 〒5420073 大阪府大阪市中央区日本橋1丁目18番12号 Osaka (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM,

/ 続葉有 /

(54) Title: CHAIN TENSIONER

(54) 発明の名称: チェーンテンショナ



WO 2005/059404 A1
(57) Abstract: A tensioner capable of preventing a plunger from coming off. A plunger (13) and a spring (15) for pushing the plunger (13) outward are assembled in a cylinder chamber (12) of a housing (11), and in the housing (11) is formed an oil supply passage (17) communicating with a pressure chamber (16) formed behind the plunger (13). An axially extending long guiding recess (31) is formed in the outer periphery of the plunger (13), and a stopper pin (33) is provided at a cylinder chamber opening end of the housing (11). An end surface (31b) of the guiding recess (31) comes into contact with the stopper pin (33), preventing the plunger (13) from coming off.

(57) 要約: プランジャの脱落を防止することができるようとしたチェーンテンショナを提供することである。ハウジング11のシリンダ室12にプランジャ13と、そのプランジャ13を外方向に向けて押圧するスプリング15とを組み、ハウジング11にはプランジャ13の背部に形成された圧力室16に連通する給油通路17を設ける。プランジャ13の外周に軸方向に長く伸びるガイド凹部31を形成し、ハウジング11のシリンダ室開口端部にストップピン33を設け、このストップピン33に対するガイド凹部31の端面31bの当接によってプランジャ13を抜け止めする。



DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ヨーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE,

BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明 細 書

チェーンテンショナ

技術分野

[0001] この発明は、カムシャフト駆動用チェーン等のチェーンの張力を一定に保つチェーンテンショナに関するものである。

背景技術

[0002] 一般に、カムシャフトを駆動するチェーン伝動装置においては、チェーンの弛み側にチェーンテンショナの調整力を付与してチェーンの張力を一定に保つようにしている。

[0003] 上記チェーンテンショナとして、ハウジングに形成されたシリンダ室内に摺動可能なプランジャと、そのプランジャを外方向に向けて押圧するスプリングとを組込み、ハウジングにはプランジャの背部に形成された圧力室に連通する給油通路を設け、その給油通路から圧力室内に供給される作動油によってプランジャに付加される押し込み力を緩衝するようにしたもののが従来から知られている。

[0004] ところで、上記のようなチェーンテンショナにおいては、エンジンの停止時、カムの停止姿勢によってチェーンの弛み側が緊張状態に保持されると、プランジャがチェーンにより押し込まれて大きく後退する場合がある。このとき、エンジンが再始動されると、チェーンに大きな弛みが生じ、プランジャが外方向に大きく移動することになる。この場合、給油通路から圧力室内に作動油を供給する油圧ポンプは始動直後であってテンショナの圧力室内に作動油を満たすのが遅れるため、圧力室内に空気が残留してダンピング特性が低下し、異音を発生する場合がある。

[0005] また、チェーンやチェーンテンショナを取り外すエンジン動弁系回りのメンテナンス時、スプリングの押圧によりプランジャがシリンダ室から飛び出して脱落するという不都合がある。

[0006] そのような不都合を解消するため、特許文献1に記載されたチェーンテンショナにおいてはプランジャの後退運動を規制する後退運動規制手段を設けてエンジンの停止時にプランジャが必要量以上に押し込まれるのを防止するようにしている。また、ハウジ

ングとプランジャの相互間に抜け止め機構を設けて、エンジン動弁系回りのメンテナンス時にプランジャがシリンダ室から抜け出るのを防止するようしている。

特許文献1:特開2001-355691号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0007] ところで、上記特許文献1に記載された従来のチェーンテンショナにおいては、ハウジングに形成されたシリンダ室の開口端部の内周にリング収容溝を設け、そのリング収容溝に装着されたレジスタリングをプランジャの外周に形成された係合溝に係合させてプランジャの後退動を規制すると共に、そのレジスタリングをプランジャの後端部外周に形成された安全溝に係合させてプランジャを抜け止めする構成であつて、レジスタリングをプランジャの後退動規制と抜け止めを兼用する構成であるため、エンジン動弁系回りのメンテナンス後、チェーンテンショナを再セットする場合に、レジスタリングに設けられた操作部を摘み、レジスタリングの拡径により安全溝との係合を解除する状態でプランジャを押し込む必要がある。

[0008] このとき、誤まってプランジャの押し込みを忘れると、スプリングの押圧によりプランジャが飛び出し、脱落するという問題が生じる。

[0009] この発明の課題は、プランジャの脱落を完全に防止することができるようとしたチェーンテンショナを提供することである。

課題を解決するための手段

[0010] 上記の課題を解決するために、この発明においては、ハウジングに形成されたシリンダ室内に摺動可能なプランジャと、そのプランジャを外方向に向けて押圧するスプリングとを組込み、前記ハウジングとプランジャの相互間に、プランジャがシリンダ室の閉塞端に向けて所定量以上に後退動するのを防止する後退動規制手段を設け、前記ハウジングには、前記プランジャの背部に形成された圧力室に連通する給油通路を形成し、その給油通路から圧力室に供給される作動油によってプランジャに付与される押し込み力を緩衝するようにしたチェーンテンショナにおいて、前記プランジャの外周に軸方向に長く延びるガイド凹部を形成し、前記ハウジングにおけるシリンダ室の開口端部に前記ガイド凹部内に一部が臨むストッパピンを設けた構成を採用

したのである。

[0011] ここで、ストッパピンは、ハウジングに形成されたピン孔に圧入する取付け方法を採用することができる。この場合、ピン孔はシリンドラ室の半径方向に向くよう形成してもよく、あるいは、シリンドラ室の外周部を横切るように形成してもよい。そのピン孔に圧入されるストッパピンとしてスプリングピンを採用することにより、ストッパピンを簡単に強固に取付けることができると共に、ストッパピンの圧入によってシリンドラ室の内径面が変形するのを防止することができる。

発明の効果

[0012] 上記の構成から成るチェーンテンショナにおいては、エンジン動弁系回りのメンテナンスによってチェーンを取り外し、あるいはチェーンテンショナを取り外すと、スプリングの押圧によりプランジャが外方向に向けて移動してガイド凹部のプランジャ後端側の端面がストッパピンに当接するため、上記ストッパピンによってプランジャを抜け止めすることができ、プランジャの脱落を完全に防止することができる。

図面の簡単な説明

[0013] [図1]この発明に係るチェーンテンショナの使用状態を示す正面図
[図2]この発明に係るチェーンテンショナの第1の実施形態を示す縦断正面図
[図3]図2のIII—III線に沿った断面図
[図4]図2の一部分を拡大して示す断面図
[図5]この発明に係るチェーンテンショナの第2の実施形態を示す縦断正面図
[図6]図5のVI—VI線に沿った断面図

符号の説明

[0014]

11	ハウジング
12	シリンドラ室
13	プランジャ
15	スプリング
16	圧力室
17	給油通路
20	後退動規制機構

31 ガイド凹部

31b 端面

32 ピン孔

33 ストップピン

34 ピン孔

35 ストップピン

発明を実施するための最良の形態

[0015] 以下、この発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1はカムシャフト駆動用のチェーン伝動装置を示し、クランクシャフト1の端部に取付けられたスプロケット2とカムシャフト3の端部に取付けられたスプロケット4間にチェーン5がかけ渡されている。

[0016] チェーン5の弛み側にはチェーンガイド6が接触されている。チェーンガイド6は軸7を中心にして揺動可能とされ、そのチェーンガイド6はこの発明に係るチェーンテンショナ10によりチェーン5に押し付けられている。

[0017] 図2乃至図4は、この発明に係るチェーンテンショナの第1の実施形態を示す。図2に示すように、エンジンブロックに取付けられるハウジング11には閉塞端を有するシリダ室12が形成され、そのシリダ室12内にプランジャ13が摺動自在に組込まれている。

[0018] プランジャ13は後端面で開口する中空室14を有し、その中空室14の閉塞端とシリダ室12の閉塞端間に組込まれたスプリング15はプランジャ13を外方向に向けて押圧している。

[0019] ハウジング11には、プランジャ13の背部に形成された圧力室16に連通する給油通路17が設けられ、その給油通路17の油出口側にチェックバルブ18が組込まれている。チェックバルブ18は圧力室16内の作動油の圧力が給油通路17に供給される作動油の供給圧より高くなると、給油通路17を閉じて圧力室16内の作動油が給油通路17に流れるのを防止する。

[0020] ハウジング11とプランジャ13の相互間には、プランジャ13がシリダ室12の閉塞端に向けて所定量以上後退動するのを防止する後退動規制機構20が設けられてい

る。

[0021] 図2および図4に示すように、後退動規制機構20は、シリンダ室12の開口部内周にリング収容溝21を形成し、そのリング収容溝21内にレジスタリング22に設けられた径方向に弾性変形可能なリング部22aを収容し、プランジャ13の外周部には前記リング部22aで締付けられる複数の円周溝23を軸方向に等間隔に設け、各円周溝23の内周にプランジャ13の先端に向けて小径となるテーパ面23aと、そのテーパ面23aの小径端に係合面23bを設けている。

[0022] ここで、レジスタリング22は、図1および図2に示すように、ハウジング11の開口端部に設けられた窓19から外部に臨む一対の操作片22bを有し、その一対の操作片22bを摘むことによってリング部22aが拡径するようになっている。

[0023] 上記の構成から成る後退動規制機構20においては、テーパ面23aがレジスタリング22のリング部22aを拡径させる作用によってプランジャ13の前進動を許容し、リング収容溝21の後壁面21aに当接して停止するレジスタリング22のリング部22aに対する係合面23bの係合によってプランジャ13の後退動を規制するようしている。

[0024] 図2および図3に示すように、ハウジング11とプランジャ13の相互間には、プランジャ13が必要ストローク移動した状態でそのプランジャ13を抜け止めする抜け止め機構30が設けられている。

[0025] 抜け止め機構30は、プランジャ13の外周に軸方向に長く延びるガイド凹部31を形成し、ハウジング11におけるシリンダ室12の開口端部にはシリンダ室12の半径方向に向ぐピン孔32を設け、そのピン孔32にスプリングピンから成るストッパピン33を圧入して、その一端部をガイド凹部31内に臨ませ、上記ストッパピン33に対するガイド凹部31のプランジャ後端側の端面31bの当接によってプランジャ13を抜け止めするようしている。

[0026] ガイド凹部31として、ここでは、プランジャ13の軸方向に長く延びる平坦面31aと、その平坦面31aのプランジャ軸方向の両端から立ち上がる一対の端面31bとで形成したが、溝から成るものであってもよい。

[0027] 実施の形態で示すように、ストッパピン33としてスプリングピンを採用すると、ピン孔32に対するストッパピン33の圧入時、そのストッパピン33が弾性変形して縮径する。

このため、ハウジング11がアルミ合金で形成されている場合に、シリンダ室12の内径面が変形するのを防止することができ、シリンダ室12の内周面とプランジャ13の外周面間の隙間は一定に保持されるので、プランジャ13の摺動性が低下するのを防止することができる。

- [0028] 第1の実施形態で示すチェーンテンショナ10は上記の構造から成り、このチェーンテンショナ10は、ハウジング11がエンジンブロックに取付けられ、スプリング15により外方向への突出性が付与されたプランジャ13が図1に示すチェーンガイド6を押圧する組付けとされる。
- [0029] 上記のようなチェーンテンショナ10の組付けにおいて、クランクシャフト1の1回転中における角速度の変化やカムシャフト3のトルク変動によりチェーン5が振動し、そのチェーン5に弛みが生じると、スプリング15の押圧によりプランジャ13が外方向に移動してチェーン5の弛みを吸収する。
- [0030] プランジャ13が前進動するとき、レジスタリング22のリング部22aは円周溝23のテーパ面23aで押されて拡径するため、プランジャ13の前進動を阻害することはない。プランジャ13の移動量が円周溝23のピッチより大きくなると、次の円周溝23がレジスタリング22のリング部22aに対応する。
- [0031] 一方、チェーン5が緊張すると、チェーンガイド6を介してプランジャ13に押し込み力が付加され、その押し込み力は圧力室16内の作動油によって緩衝される。
- [0032] エンジンを停止し、カムシャフトのカムの停止姿勢によりチェーン5の弛み側が緊張状態に保持されてプランジャ13が押されると、レジスタリング22のリング部22aがリング収容溝21の後壁面21aに当接して停止し、その停止するリング部22aに円周溝23の係合面23bが係合して、プランジャ13が停止状態に保持される。このため、プランジャ13は必要以上に押し込まれることはなく、エンジンを再始動した時のチェーン5のバタツキを抑制することができる。
- [0033] エンジン動弁系回りのメンテナンスによりチェーン5が取り外され、あるいはチェーンテンショナ10が取り外されると、スプリング15の押圧によりプランジャ13が前進して、ガイド凹部31のプランジャ後端側の端面31bがストッパピン33に当接し、その当接によってプランジャ13が抜け止めされ、脱落するのが防止される。

[0034] メンテナンス後のチェーンテンショナの再セットに際しては、レジスタリング22の一対の操作片22bを摘み、リング部22aを拡径させた状態でプランジャ13を押し込むようにする。

[0035] 図5および図6は、この発明に係るチェーンテンショナの第2の実施形態を示す。この実施形態では、ハウジング11におけるシリンドラ室12の開口端部に、シリンドラ室12の外周部を横切るピン孔34を形成し、そのピン孔34にスプリングピンから成るストップピン35を圧入して一部をガイド凹部31内に臨ませ、そのストップピン35に対するガイド凹部31のプランジャ後端側の端面31bの当接によってプランジャ13を抜け止めするようにしている。

[0036] 他の構成は第1の実施形態で示すチェーンテンショナと同一であるため、同一部品には同一の符号を付して説明を省略する。

[0037] 第2の実施形態で示すように、ハウジング11にシリンドラ室12の外周部を横切るピン孔34を形成し、そのピン孔34にスプリングピンから成るストップピン35を圧入することによって、シリンドラ室12の内径面の変形をより効果的に防止することができる。

請求の範囲

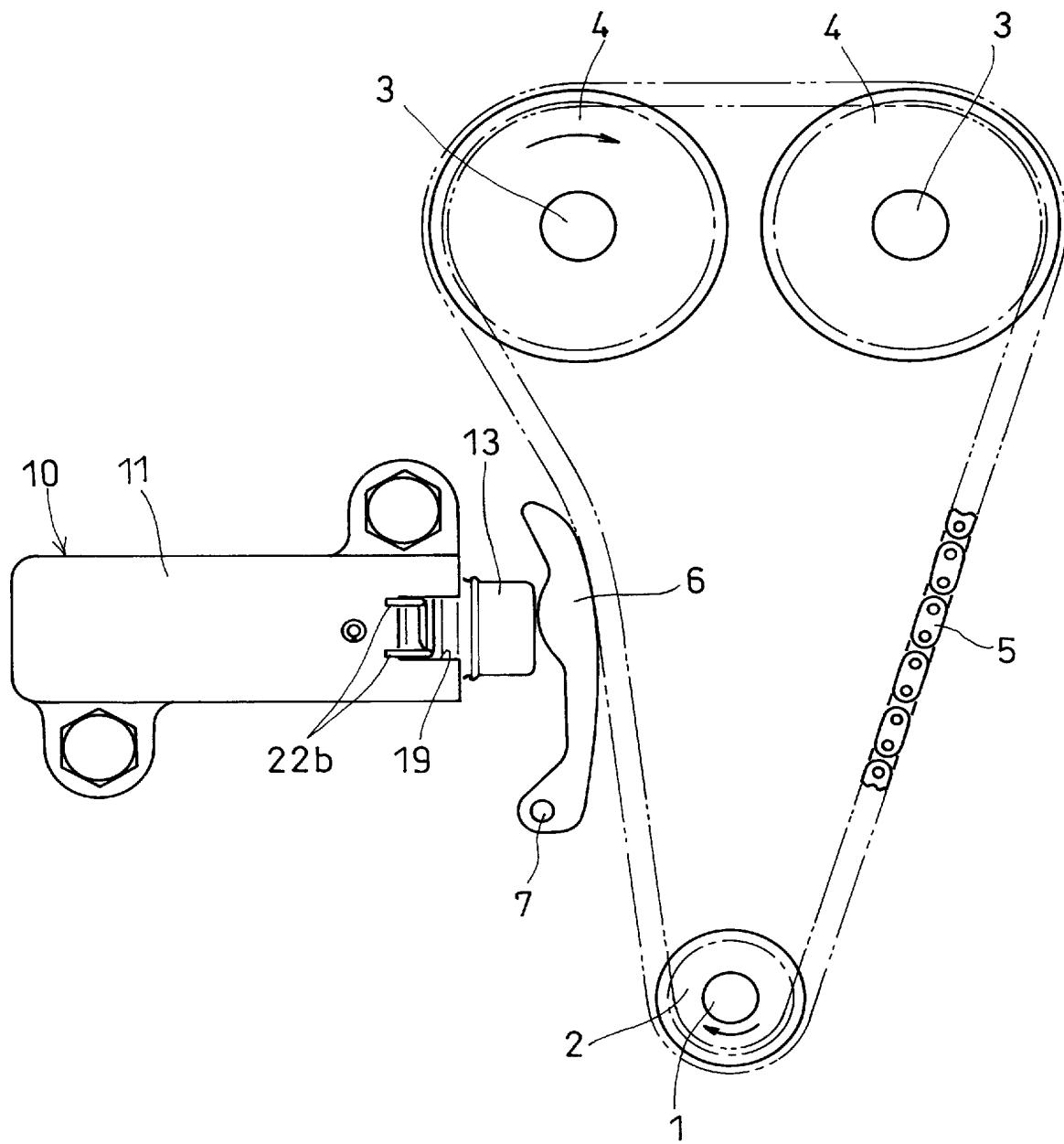
[1] ハウジングに形成されたシリンダ室内に摺動可能なプランジャと、そのプランジャを外方向に向けて押圧するスプリングとを組込み、前記ハウジングとプランジャの相互間に、プランジャがシリンダ室の閉塞端に向けて所定量以上に後退動するのを防止する後退動規制手段を設け、前記ハウジングには、前記プランジャの背部に形成された圧力室に連通する給油通路を形成し、その給油通路から圧力室に供給される作動油によってプランジャに付与される押し込み力を緩衝するようにしたチェーンテンションショナにおいて、前記プランジャの外周に軸方向に長く延びるガイド凹部を形成し、前記ハウジングにおけるシリンダ室の開口端部に前記ガイド凹部内に一部が臨むストッパピンを設けたことを特徴とするチェーンテンションショナ。

[2] 前記ハウジングにおけるシリンダ室の開口端部にシリンダ室の半径方向に延びるピン孔を形成し、そのピン孔にストッパピンを圧入した請求項1に記載のチェーンテンションショナ。

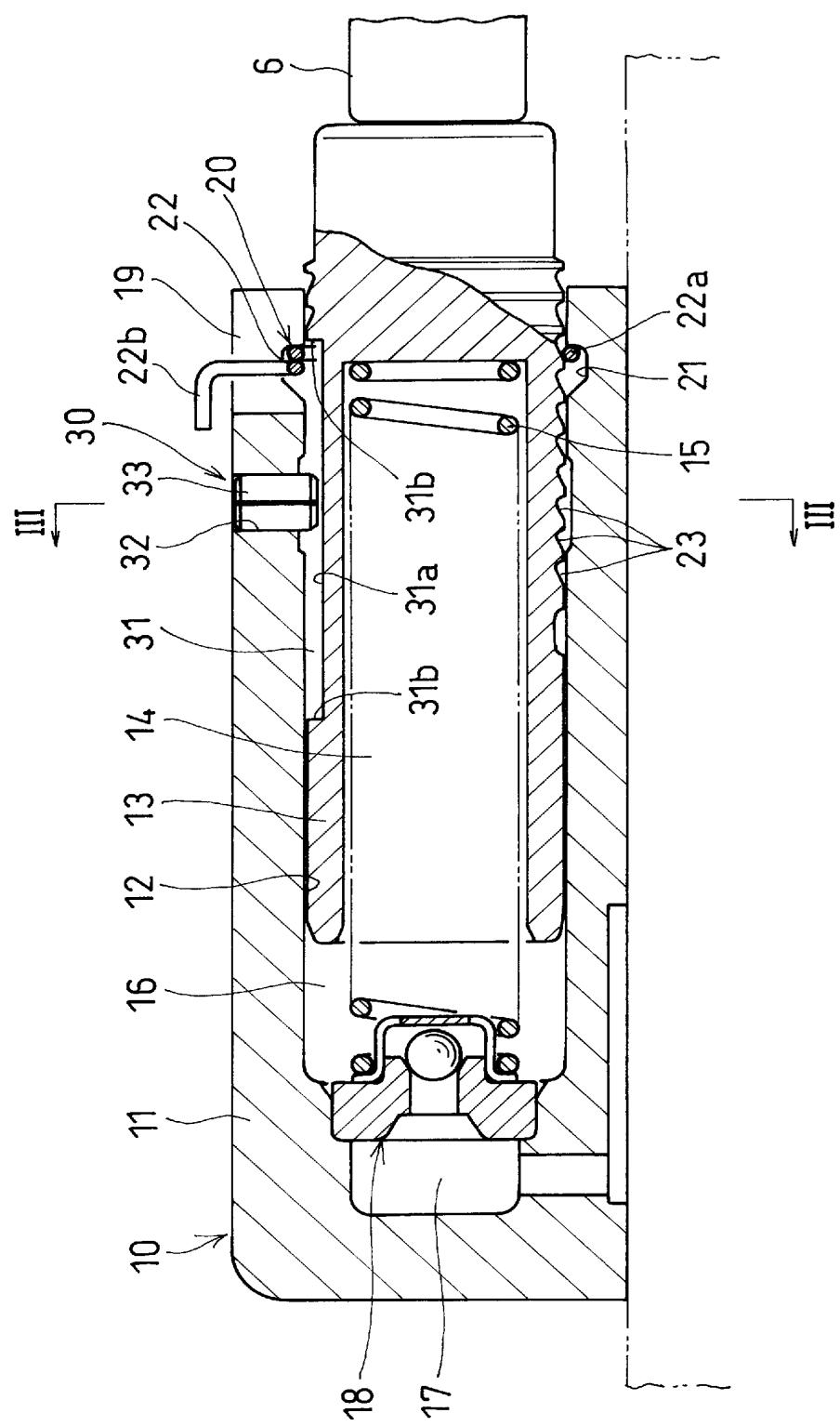
[3] 前記ハウジングにおけるシリンダ室の開口端部にシリンダ室の外周部を横切るピン孔を設け、そのピン孔にストッパピンを圧入した請求項1に記載のチェーンテンションショナ。

[4] 前記ストッパピンがスプリングピンから成る請求項1乃至3のいずれかに記載のチェーンテンションショナ。

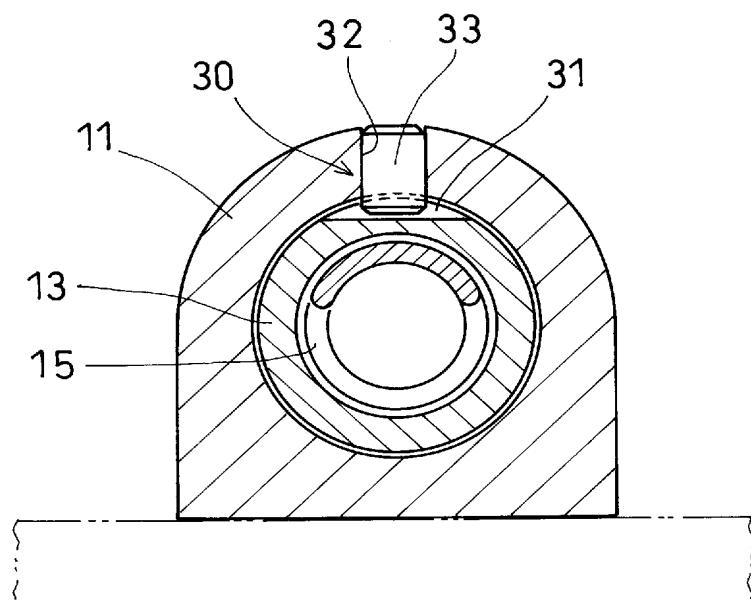
[図1]



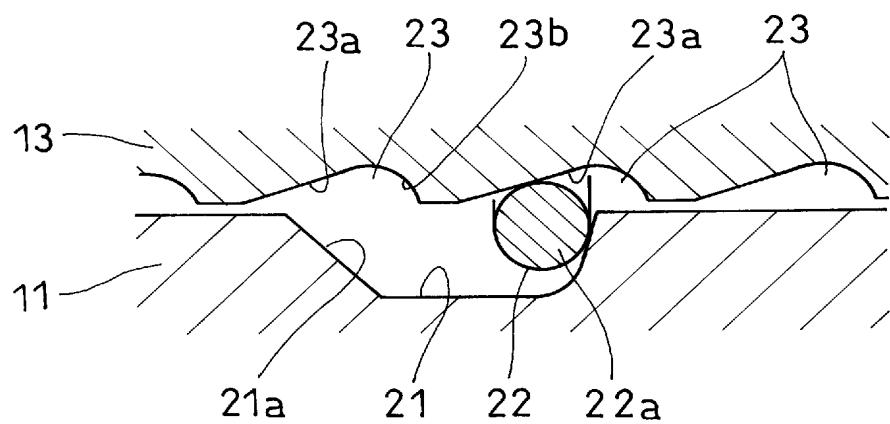
[図2]



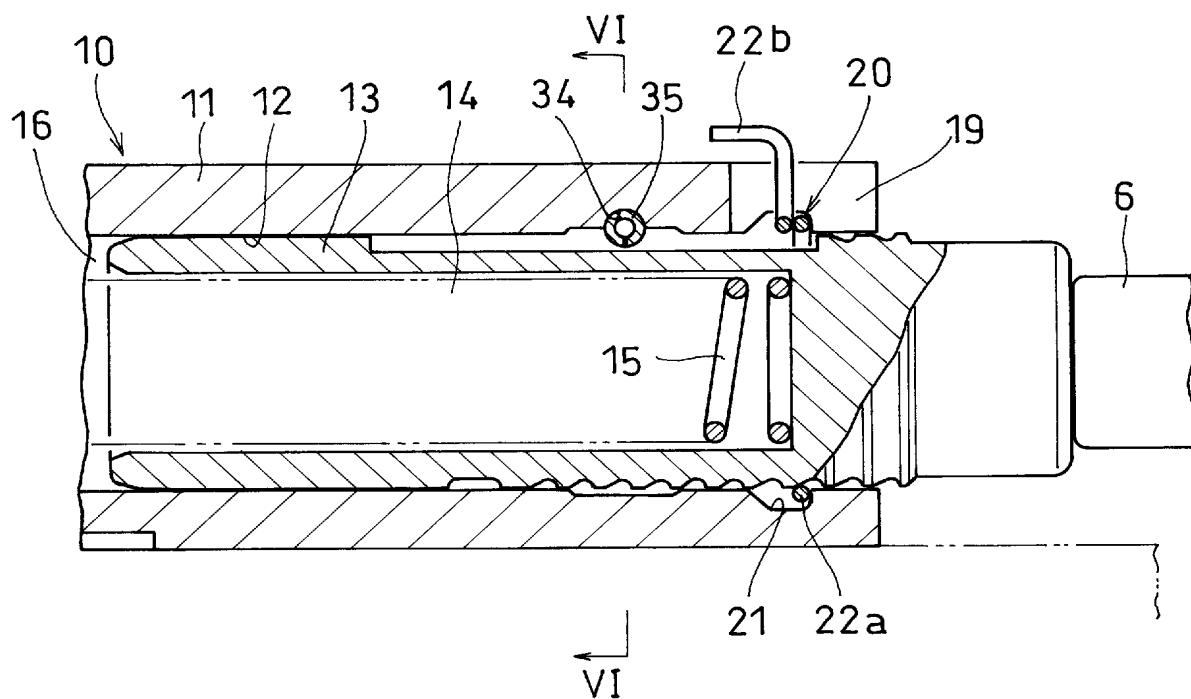
[図3]



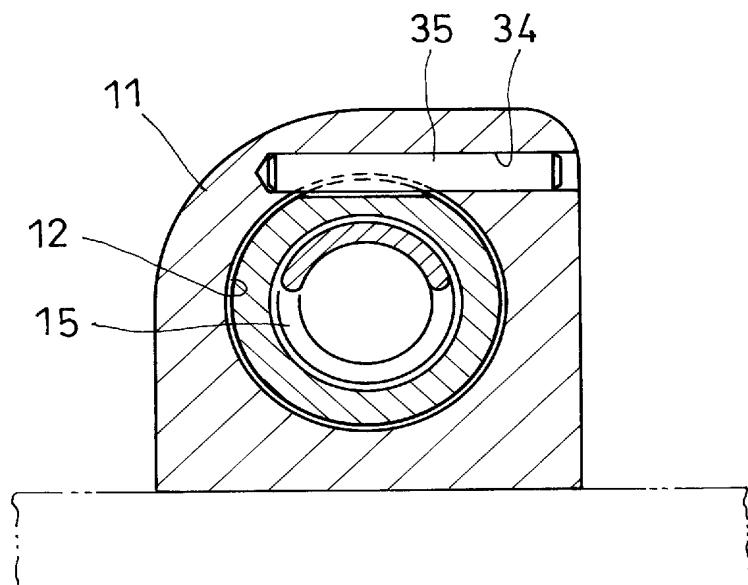
[図4]



[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/019026

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
 Int.Cl⁷ F16H7/08

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

 Int.Cl⁷ F16H7/08

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

 Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2005
 Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2005 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2000-291749 A (NTN Corp.), 20 October, 2000 (20.10.00), Par. Nos. [0038], [0051] to [0052]; Figs. 2, 4, 5 (Family: none)	1-3
Y	JP 2003-184968 A (NHK Spring Co., Ltd.), 03 July, 2003 (03.07.03), Par. No. [0046]; Fig. 2 & WO 2003/052295 A1	4

 Further documents are listed in the continuation of Box C.

 See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A"	document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E"	earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L"	document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O"	document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P"	document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T"	later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y"	document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&"	document member of the same patent family

 Date of the actual completion of the international search
 29 March, 2005 (29.03.05)

 Date of mailing of the international search report
 12 April, 2005 (12.04.05)

 Name and mailing address of the ISA/
 Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP2004/019026

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C17 F16H7/08

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C17 F16H7/08

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 2000-291749 A (エヌティエヌ株式会社) 2000. 10. 20, 段落【0038】【0051】-【0052】, 図2, 4, 5 (ファミリーなし)	1-3
Y	JP 2003-184968 A (日本発条株式会社) 2003. 07. 03, 段落【0046】，図2 & WO 2003/052295 A1	4

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

29. 03. 2005

国際調査報告の発送日

12. 4. 2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

平瀬 知明

3 J 9237

電話番号 03-3581-1101 内線 3328